



大崎町立 大崎小学校

児童数 318人
学級数 15クラス



《テーマ》

人権尊重の精神に立ち、偏見や差別をなくし、相互に認め合い、助け合っるとともに伸びようとする実践力の育成

研究に当たって（テーマ設定の理由）

一人一人の抱えている問題や課題（いじめ、不登校、インターネット等による誹謗・中傷、性的マイノリティへの対応など）様々な今日的な課題を解決するために、「人権教育は全ての教育の基本である」という認識の下、「チームで取り組む人権教育」の体制づくりや実践研究を行う。

研究スケジュール

7月4日（月）職員研修「社会情勢の変化を踏まえた人権教育の推進」
11月14日（月）職員研修「様々な人権課題に対する正しい認識や課題について」
11月30日（水）5・6年生児童を対象にした人権教室「テーマ：性の多様性」

特色ある取組（他校にもおすすめの取組）

□ 人権意識を高めるための職員研修

県教育庁人権同和教育課から講師を招き、「人権教育は全ての教育の基本」と題して、人権教育を取り巻く社会情勢の変化や参加型学習の進め方、多様な性を尊重する学校での取組などについて研修を深めることができた。



【職員研修】

□ 人権標語づくり（人権の花運動への取組）

「人権の花」運動に取り組むことで、全職員・全児童が協力し合ってひまわりを育てる活動を通して、協力すること、感謝することの大切さを学ぶよい機会になった。花を育てる中で、人権標語づくりにも取り組んだ。それを多目的ホールに掲示したり、優秀作品を一覧にして紹介したりすることができた。

【人権旬間の取組】



□ 校内人権旬間と人権教室の取組

自分のよさや友達のよさに気付き、互いのよさや違いを大切にしようとする心情を育て、自己肯定感・自己有用感を高めるために「自分・友達のいいところを見つけよう」カードを活用し、伝え合う場を設定した。

人権擁護委員、県教育庁人権同和教育課の指導主事を講師に招き、学年の実態に応じた人権問題について考えたり、高学年は「性の多様性」について理解を深めたりする機会になった。



【人権教室】

子どもの人権プロジェクト推進校の取組の成果と課題（子どもの変容、よかったこと、今後やってみたいこと）

□ 成果

- ・今年度は、「人権の花」運動に取り組むことで、全職員・全児童が協力し合ってひまわりを育てる活動を通して、協力することや感謝することの大切さを学ぶよい機会になった。
- ・職員間でも人権教育の研修を積むことで人権意識が高まり、会議や連絡会の中で、人権侵害に当たらないかなどの会話が多くなるなど、チームで取り組む機運の醸成につながった。
- ・人権を守るということは、自分を大切に、周りの相手のことも尊重することだということに気付き、お互いを認め合っって楽しい生活を送ろうという意識が高まってきている。

□ 課題

- ・「学校楽しいと」の結果では、自己肯定感の低い児童も多い。様々な取組を今後も継続していきながら、児童の居場所を作り、自己肯定感・自己有用感を高めていきたい。
- ・計画的に継続した人権教育を実践し、広報活動を通して保護者や地域も巻き込んだ人権教育を進めていきたい。